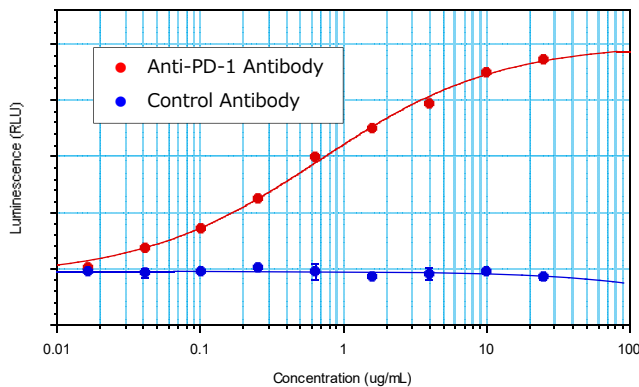


セルベースアッセイ —免疫チェックポイント阻害剤のバイオアッセイ—

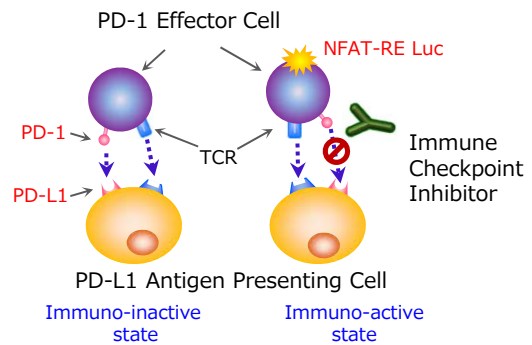
免疫チェックポイント阻害剤は、T細胞の不活化を阻害する薬剤であり免疫療法で注目されている。本アッセイは、免疫チェックポイント阻害剤の効果をエフェクター細胞に導入したNFATレポーターを検出することで評価する。薬剤の評価、新薬開発のスクリーニングなどに有用な方法である。

PD-1/PD-L1 Blockade Bioassay

実験例



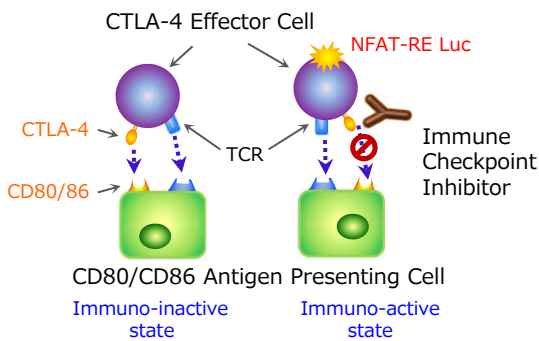
免疫チェックポイント阻害剤(抗PD-1抗体)の濃度依存的にシグナルが上昇



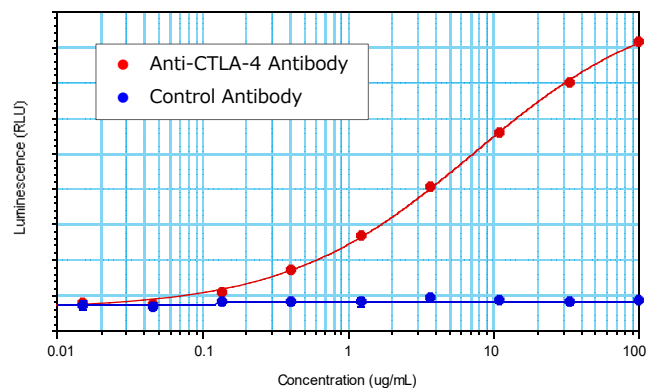
免疫チェックポイント阻害剤(抗PD-1抗体, 抗PD-L1抗体など)によって、エフェクター細胞が活性化するとシグナルが得られる。

CTLA-4 Blockade Bioassay

実験例



免疫チェックポイント阻害剤(抗CTLA-4抗体など)によって、エフェクター細胞が活性化するとシグナルが得られる。CTLA-4は、活性型T細胞、制御性T細胞(Treg)に発現している。



免疫チェックポイント阻害剤(抗CTLA-4抗体)の濃度依存的にシグナルが上昇

エフェクター細胞は、T細胞活性を抑制する遺伝子とNFATレポーターを導入した細胞株を使用する。その他のターゲット(anti-TIGIT, anti-LAG-3など)のアッセイもリクエスト可能。(米Promega社とライセンス契約)